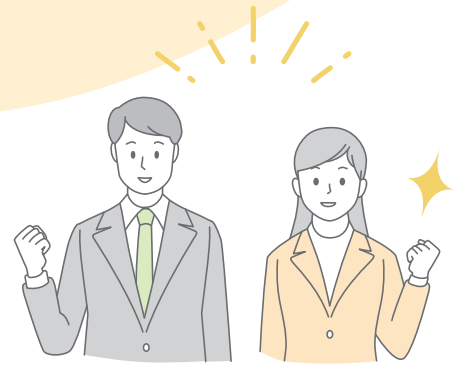


Voice of Senior

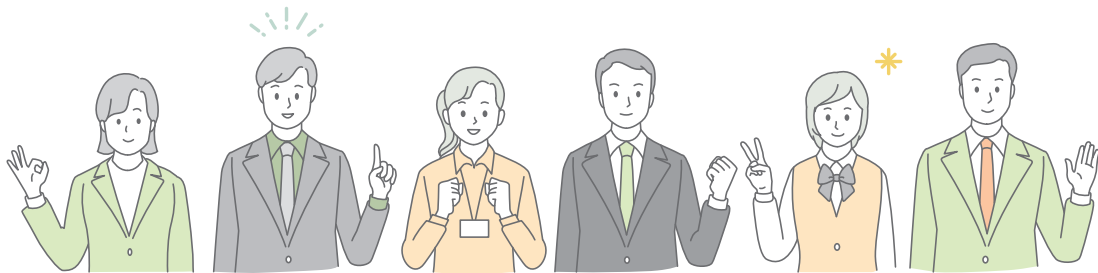
2024年度入局職員の「生の声」を聞いてみました！



Q 入局してからギャップを感じたところは？

A

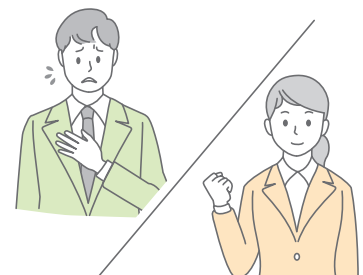
- 男性職員の月単位での育休取得やフレックス制度の活用等、ワークライフバランスの取組に積極的なところ。
- 想像以上に、独占禁止法への熱意を持って仕事に向き合ってる方が多かった。自分の考えをしっかりと持っている方が多く、執務室での議論がいつも白熱していた。
- 上司との距離が近く、密にコミュニケーションを取ることができるので、いい意味でギャップを感じた。
- 堅い職場かと思っていたが、皆さんがすごく優しく、ギャップを感じた。
- 1年目はコピーを取るなどの庶務・雑用が多いと思っていたが、思った以上に独占禁止法の知識が必要な仕事ができるので楽しい。

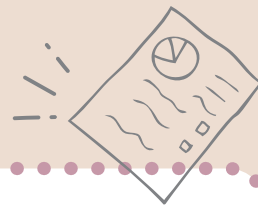


Q 失敗や成功も含め、印象に残っていることは？（法執行業務）

A

- まさに、初めての立入検査に必要な書類の書き方を間違えてしまい、非常に焦った。
- 弁護士から新規案件についてお電話をいただいた際、必要な情報を聞き忘れ、確認のために何度も電話することになった。
- 現在までに数回、正式事件の立入検査に参加したが、どの検査も全く同じ流れで進むことはなく、パソコンのデータがうまく取れない、なかなか検査を開始できないなど、毎回異なるトラブルが発生した。その度に現場のリーダーである事件キャップや経験を積まれている先輩方が臨機応変に対応している姿を見て感銘を受けた。
- 様々な審査官の横に付いたが、人によって関係人への接し方が全く違って驚いた。審査官を見て自分にあった方法を学ぶと良いと思う。また、事件審査に必要な書類を書くのに意外と時間がかかるので、必要な書類の書き方はある程度マスターしておくと思う。
- 立入検査に数回参加させていただき、どの立入検査も思い出深い。また、事件の始まりを決定する会議に立ち会えた時は感動した。
- 事件の公表を行った際に、記者発表の映像がテレビで放送され、印象に残っている。庶務的な業務しか携わっていない私でも少し達成感があり、自分も事件調査を行ってみたいと思った。





Q

失敗や成功も含め、印象に残っていることは？（政策立案業務）

A

- ヒアリングメモを作成した時、余計な雑談話をちりばめたら、全て上司に削除されてしまった。
- 上司や先輩に助けてもらいながら、自分で受けた相談を回答まで対応できたときに達成感があった。
- 審議する前の国会議員に対する事前説明に随行したこと。法案審議に携われたことはよい経験になった。
- 初めて会議のメモを作成した際、会議のスピードについていけず、作成することさえ難しかった。そして案の定、提出後、ほとんど上司に書き直された。
- 法律の施行というビッグイベントに携わることができ、大変なことも多かったが、施行日を無事迎えることができて、とてもよい経験になった。
- 事業者に対するヒアリングは印象に残った。違反行為の未然防止や業界の発展のために協力的な事業者も多いので、その分野のプロから参考になる話を聞くことができる。

Q

職場の雰囲気や上司・先輩職員との関係性は？

A

- 直属の上司・管理職共に穏やかで、働きやすいと感じてる。先輩とは、異動後も連絡を取ったり、ランチに行っている。自分の部署は穏やかで親切な方が多く、いい雰囲気である。
- 議論が活発で、自分の意見を言いやすい雰囲気である。分からないことがあれば、上司が独占禁止法や法律の知識を補足して教えてくださるので、独占禁止法への興味も高まる。
- 直属の上司とはとても良好な関係を築けていると思う。私の上司は、指導するところは指導するし、雑談のように一息つける話もしていただけるので、気兼ねなく相談できる素敵な上司である。
- 職場の雰囲気は、静かで落ち着いた雰囲気、たまに雑談をしている。管理職や上司の方々を採用区分に関係なく、意見を求めてくださるため質問や意見がしやすい。
- 上司や先輩とは気軽に話せる仲だと思う。
- 風通しの良い職場だと思う。課長補佐が部下の意見を取り入れて、管理職まで話をしてくれ、管理職も部下の意見をくみ取ってくれる。
- 地方事務所は職員が少ないため、課を超えてお話すこともある。私の上司は常に根拠をもって仕事に取り組む方でもとても尊敬している。
- 業務上の相談がしやすい一方で、様々な業務を任せいただき成長できる環境を作っていただけ。



Q

同期がいて良かったこと、助けられたエピソードは？

A

- 仕事で失敗したときに吐き出せる空間があると精神的に余裕ができる。
- 昼休みに同期と雑談をすることでリフレッシュができる。出張で本局や他の地方事務所に行く時に、同期から美味しいお店を紹介してもらい、一緒にご飯を楽しむことができる。
- 経験したことがない庶務作業の依頼があった際に、担当の方がとても忙しそうで質問できなかったが、同じ作業を同期が経験していたため、同期に聞きながらすぐ処理することができた。
- マニュアルを確認しても理解できないときに、同期が行ったことがある業務だと質問することができた。
- 辛いことがあったときに同期と話す、同期も辛いことがあるという話が聞けた。
- 仕事でわからないことがあったとき、同期と相談しながら作業を行うことで、案件を処理できた。
- 仕事で困ったことや聞きづらいことについて聞くことができるため、同期がいてよかったと感じた。また、仕事のことを忘れ、気軽に飲みにも行けるため、大変助かっている。
- 分からないことばかりで落ち込むことも多かったが、同期の頑張りを見て自分も頑張ろうと思った。



Q

出勤時の服装は？

A

〈女性〉

- オフィスカジュアルである（いわゆるコンサバ系統）。ストッキングは1か月で3本駄目にしてから、靴下派になった（外部の方と会うときはストッキング）。靴はリュックで通勤している。
- ブラウスにスカートが多いがワンピースの日もある。想像以上にゆるく、最初は驚いた！
- 私はスカートにブラウスやニットを着ることが多い。
入局前に想像していたよりもかなりラフな格好でも大丈夫だったので驚いた。
私がスーツを着るときは立入検査・事情聴取・公表のときくらいだ。

〈男性〉

- 部署によっては、外部の方とお会いする機会がほぼないので、私の所属している課内にはカジュアルな服装の方が多い。私は、ジャケットをロッカーに常備している。
- 夏にはポロシャツを着てスニーカーを履いている方が多くいる。
- カジュアルな服装も認められているので、夏に大手衣料量販店のポロシャツを着たりしている。
- 夏場はクールビズで勤務しており、冬場もネクタイはしていない。

Q

ランチタイムはどのように過ごす？

A

- お弁当を持参している。地下の広場で同期とおしゃべりしながら食べることが多い。
- 昼休憩は12時から1時間。コンビニでサラダ等を購入している。
たまに、キッチンカーでテイクアウトをしたり外食をする。
- 地下の弁当屋で購入し、そのまま同期と地下で食べるが多い。
月に一度ほど課室内の同期と他省庁の食堂へ足を延ばすこともある。
- 自分のデスクで持ってきたお弁当を食べている。たまに上司に近くランチに連れて行ってもらうこともある。
- 私はいつも同期と昼食をとっている。場所は地下1階の広場のようなところで大体4～6人くらいの同期とご飯を食べている。私はお弁当ですが、コンビニで買っている同期も多い。



Q

退庁後や休日（プライベート）の過ごし方は？

A

- 友人と飲みに行ったり、公取委サッカー部の練習に参加している。
- 定時退庁できた日はカフェに寄ったり、休日はライブ（音楽・お笑い）に行ったり、おいしいものを食べに行っている。
- 公取委のサッカー部に所属しているため、同僚とフットサルをすることもある。
また、地方から上京してきたため、東京観光をしている。
- 業務では体を動かす機会が無いので休日はランニングをしている。
また、友人とランチに行ったり、旅行に行ったりとプライベートも満喫している。

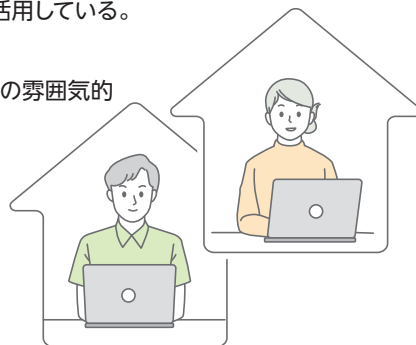


Q

ワークライフバランスの推進のための取組は？

A

- テレワークを活用する方が多く、かなり自由な働き方ができる環境だと思っている。
- 育児時間や自身の働き方に併せてフレックス制度を活用している上司・先輩方が多いと感じる。
- テレワークやフレックス制度は活用している人の方が多く、私も活用している。夏季休暇等の取得は部署によって取りやすさが変わる。
- 非常に取組が進んでいると思う。制度そのものだけでなく、職場の雰囲気的にも取得しやすく、自分の時間を大切にできる環境だと感じる。
- フレックス制度は割と自由に使えると思う。また、夏季休暇も自分の取りたいときに取得できたので自由だと思う。
- 基本的には自由だと感じている。子育てをしている先輩は、テレワークやフレックス制度を上手に活用して家族との時間を取っている。



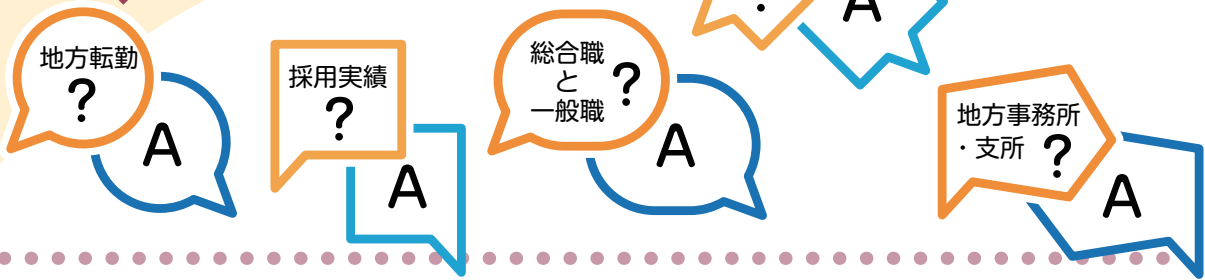
昨年度入局の先輩からのアドバイス & メッセージ

学生時代にやっておくと良いこと

- 就職すると自分に割く時間がかなり減るので、趣味やスポーツに目一杯打ち込んでください！
- 社会人になると自由に遊ぶ時間を確保することも難しくなるので、思う存分遊び尽くしてほしい。
- 夜更かしして遊ぶことをしておいた方が良いです。社会人になると夜更かし出来ない。
- 平日に出かけることなどができなくなるので、学生のうちにしか経験できない事を沢山やっておくべき。
- 年代を問わずコミュニケーションをとる。
- 学生時代の友達は、社会人になってからも自分の支えとなってくれる大切な宝物だ。
- 就職後に必要な勉強よりも、旅行に行ったりライブに行ったりたくさん遊んでおくことが一番だ。
- 平日に出かけられることや学生料金で美術館等に行けるのは学生の特権だ。
- 文章を読むことに慣れておくと良い。あと、平日にたくさん出かけられるのは今のうちだ！！
- 少しでもやってみたいと思ったことは行動に移してみるべき。一見関係のないような学生時代の経験が業務に役立つこともある。

これから就職活動をする方へ

- 頑張った先には開放感と達成感が待っている！無理のない範囲でがんばってください。
- なるべく多くの説明会に参加し、職員の雰囲気を感じてください。
- 公取委の手厚い研修制度がサポートしてくれるので、知識がなくても不安を感じる必要はありません。初年度から様々な経験を積むこともできるので、是非、公取委を受験してみてください。
- たくさん説明会に参加したり、多くの人の話を聞いたりして、納得して就職活動を進めてください！
- 実際に働くイメージができるかが大事だと思います！どんな業務があるのか、ぜひ知ってください！
- 就職活動をしている間は不安なことが多いですが、不安をマイナスではなく前向きに捉えてください！
- 自分が仕事に求めるものを真剣に考えた方が良い。
- 息抜きもしつつ頑張ってください！私は「就活後にやりたいこと」リストを作り、そのために頑張りました！
- 就職活動は、全てがうまくいくわけではないので、落ち込むことも多いかと思います。しかし、下を向かず前を向き続ければ、いつか報われると信じて頑張ってください。
- 就職活動は自分のことを考える良いきっかけです。自分は何がしたいか、将来どうなりたいかなど色々模索してください。



Q1 どんな人を求めていますか？

A 公正取引委員会が扱う幅広い分野の経済活動について旺盛な知識欲を持って学ぶ姿勢、大企業や中小企業の従業員から一般の消費者まで様々な方と対話できるコミュニケーション能力などの素養、そして何より、公正取引委員会が行う競争政策に共に携わりたいという気持ちを持った方を求めています！

Q2 毎年の採用実績はどのようになっていますか？

A 公正取引委員会では、年齢・性別・出身大学・出身学部などにとらわれることなく、採用を行っています。法学部や経済学部出身者が多いのか？との御質問もよくありますが、公正取引委員会職員の出身学部を見ると、法学部、経済学部の順に出身者が多いというデータはあるものの、文学部や理系学部などの出身者、大学院修了者も多数在籍しています。

過去5年の採用実績（〔 〕内は女性の内数）

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
総合職	7〔3〕	6〔2〕	9〔5〕	8〔3〕	6〔3〕
一般職(大卒)	14〔6〕	19〔9〕	13〔7〕	31〔21〕	17〔10〕
一般職(高卒)	1〔1〕	5〔4〕	4〔3〕	7〔3〕	5〔3〕

※1 「総合職」とは、国家公務員採用総合職試験(院卒者試験、大卒程度試験)をいいます。
 ※2 「一般職(大卒)」とは、国家公務員採用一般職試験(大卒程度試験)をいいます。
 ※3 「一般職(高卒)」とは、国家公務員採用一般職試験(高卒程度試験)をいいます。

Q3 総合職と一般職で業務に違いはありますか？

A 公正取引委員会では、採用区分に関わらず、法執行と政策立案のいずれの業務にも携わります。総合職よりも一般職の方が法執行の業務に携わる機会が多い傾向はありますが、どの職種でも様々な業務を経験することでステップアップしていくことになります。

Q4 地方転勤はありますか？

A 一般職で採用となった場合、入局後一定期間勤務した後で、本局(東京)採用者の場合は地方事務所・支所のいずれかに、地方事務所・支所採用の場合は本局に約2年間の転勤があります。総合職で採用となった場合には基本的に地方転勤はありません。

Q5

公正取引委員会の地方事務所で働きたいのですが、採用は行っていますか？

A

一般職（大卒程度）を中心に、各地方事務所等での採用も行っています。詳しくは人事院Webサイトに掲載される事務所ごとの採用予定者数を確認した上で、各地方事務所等への官庁訪問を行ってください。

人事課企画官からのメッセージ

公正かつ自由な競争を通じて

このパンフレットを手にとってくださった皆さん、公正取引委員会に興味を持ってくださり、ありがとうございます。

このパンフレットでは、皆さんに公正取引委員会の業務の内容や魅力をお伝えできるよう、多くの職員にメッセージを寄せてもらっています。その中で、たびたび、「公正かつ自由な競争」という言葉が出てきていると思います。公正、自由、競争というそれぞれの言葉は、誰でも知っているものです。しかし、ひとたびこれらをつなげた「公正かつ自由な競争」を、具体的な事件処理や政策立案を通じて実現しようとする、それはとても難しい判断が求められるものとなります。

この判断は、私たち職員一人一人による緻密な調査、深い思考、関係者との丁寧なコミュニケーションといった日々の仕事を支えています。この日々の仕事を行う上では、多くの労力を掛けなくてはならないこともあれば、大きなプレッシャーが掛かることもあります。

それでも、公正かつ自由な競争を通じて、経済を良くしていきたい、消費者の利益を守っていききたい、と思ってください方、どうぞ、私たちと一緒に働いてください。

公正取引委員会では、入局した職員にしっかりと活躍してもらえるよう、研修に力を入れてきています（47頁を御覧ください）。そして、全ての職員が自身の強みを持ち、育て、最大限発揮することができるよう、人材戦略を策定し、様々な取組を行っています。このように、職員一人一人が成長ややりがいを更に感じられるような職場作りを進めています。このような職場で、皆さんと一緒に働くことができる日を楽しみにしています。

